本覚寺々報

第３１号
－発行日－
令和２年
２月５日

安穏
an non

巻頭言

住職　波多野 真公

元号が改まって令和となりました。そしてもう令和２年です。令和元年は2/3しか無かったのであっと言う間だったように感じます。

さて、ある学校の先生に聞いたお話ですが、「ありがとうの反対の言葉は何だと思いますか」と、学生さんに尋ねると、分からないと言う方が多く、「どういたしましてかな」と、面白い答えが返ってくるそうです。

「ありがとう」を漢字で書くと、「有難う」となり、『有難いこと』『なかなか無い事』ということです。そのことを踏まえますと「有難う」の反対の言葉は『よくあること』になり「あたりまえ」だそうです。皆さんはお分かりになりましたでしょうか。有難いといただく心はそれが当たり前ではない、という事に気付かさせていただかなければ、決して起こることのない心なのです。

しかしながら、悲しいことに私達は、当たり前と思っていることが、当たり前でなくなるまで、なかなか気づくことが出来ないのかもしれません。

当たり前と思って過ごしている人生では、幸せが当たり前となり、幸せの中に居ながら、幸せをいただく心のアンテナがだんだんと閉じてしまうのかもしれません。それは人間にとって一番不幸なことなのではないでしょうか？

一年を振り返って、まったく当たり前のことなど何一つもなく、有難い日々を送らせていただいていたことを今一度思い定め、感謝の思いで新しい年を迎えていきたいものです。

合　掌

ご門主が昨年11月23日の「秋の法要」のご親教(法話)で、「特に若い人の宗教離れが盛んに言われております今日、中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗のみ教えにあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会で唱和していただきたい」と、「念仏者の生き方」の肝要を4カ条にまとめられた「私たちのちかい」を示されました。浄土真宗のみ教えを、これからも広く伝えていくことが後に続く私たちの使命であることを心に刻み、お念仏申す道を歩んでまいりましょう。

生活の中に
私たちのちかいを

私たちのちかい

一、自分の殻に閉じこもることなく
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑み語りかける仏さまのように

一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず
しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように

一、自分だけを大事にすることなく
人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲に満ちみちた仏さまのように

一、生かされていることに気づき
日々に精一杯つとめます
人びとの救いに尽くす仏さまのように

初参式

昨年は、令和初の初参式となりました。

3人の可愛い赤ちゃんがお参りになりました。

これから明るくお念仏のある環境の中で、お子様が健やかに成長されることを願ってやみません。

大和田　城戸内　悠斗くん
野岡　丸山　大裕くん
宝永　笠松　佳希ちゃん

納涼法話会 流しそうめん

年々遊びに来てくれる方が増えているこの行事。月忌参りなど行くと色んなお宅から、

「今年も流しそうめんはあるんですか？ウチの孫が大好きで、それを楽しみに遠方から帰ってくるんですよ。」と嬉しそうに話していただけるので、仏教壮年会の方たちとの準備にも一層気合が入ります。昨年は、天気が良かったので水風船で遊ぶお子さんが多くみられました。元気に走り回るお子さんを見ていると大人たちも元気をいただけますね。

今回の法話会の御講師は、広島県・善正寺の竹本憲先生を迎えて行われました。本覚寺の稚さん(住職の姉)が京都で学んでいるときの同級生ということで、今回の法話会のご縁となったそうであります。クラスのムードメーカー、明るい方で、話の中に笑いもあって、とても分かり易かったと大評判でした。

今年は流しそうめんだけではなく、メインである法話会のほうにも足を運んでいただければと思います。

本堂内陣仏具おみがき

本覚寺では、一年に三回、永代経前・報恩講前・年末に、本堂の内陣の仏具を全て外して、門徒の方々にお願いしておみがきを行っています。細かい仏具などは磨きにくく根気がいる作業ではありますが、磨けば磨くほど綺麗になるので、とても気持ちの良いものであります。おかげさまで毎年ピカピカの状態でお寺の法要を勤めることができています。

浄土真宗の内陣は、阿弥陀如来の極楽浄土を表しているので、いつも綺麗な状態にしておきたいものです。お手伝いいただいた門徒の皆さま、ありがとうございました。

懇親ゴルフコンペ

去年の六月に大コンペを行いました。七組二十五名の参加で優勝は、松本の中本英雄さんでした。十一月には小コンペ。三組十二名の参加で優勝は、内山梨子の齊藤俊信さんでした。

十一月のコンペ終了後には、ゴルフコンペ参加者と仏教壮年会の方との合同懇親会が、あわら温泉で行われました。今回は参加者が例年より少なかったように感じました。しかし、初めて参加される方もおられたので、こういうご縁でお念仏の輪が広がっていけばいいなと感じたことでございます。

私事ではありますが、昨年九月に、いつもお世話になっている方から、使わなくなったゴルフセット一式を頂いたので、この機会にとゴルフを始めました。まだ4，5回しかコースに出たことがなく120～130は叩きますが、今年の六月の本覚寺コンペには出場したいと考えています。その時までには少しは上達していると思いますので、その際はどうか温かい目で、よろしくお願い致します。

仏教壮年会

昨年も、様々な法要や行事のお手伝いサポートをしていただき誠にありがとうございました。寺務所一同、心から感謝しております。

主な活動内容

本覚寺年中行事の協賛。
本山・教区・組の行事参加。
（連研、研修会、聞法のつどい等）
ゴルフ大会。納涼法話会・流しそうめん。
その他、例会・新年会・懇親会・聖地参拝　等　レクリエーションもたくさん。

仏教婦人会

いつも婦人会の方々には裏方として支えてもらっています。皆さまには活気ある笑顔とパワーをいつも頂いております。ご門徒のみなさま、そして寺務所一同、心から感謝しております。

主な活動内容

本覚寺年中行事の協賛。
花まつり、降誕会、永代経、法話会、報恩講　等
教区・組行事参加
別院清掃奉仕、
みのりのつどい、茶席　等
永平寺町内の方を中心に活動しております。

私はしばしば　仏を忘れるが
仏は私を忘れない

仏法の話を聞いたり、語り合っているときは、ごもっともという顔をしてうなずいてはいますが、ひとつ場面が違うと、つい本音が出て、相手を平気で傷つけているこの私であります。しばしば仏さまのことを忘れてしまう私のことを、かたときも忘れられないのが、阿弥陀如来であります。み仏のはたらきを「休息なし」と言われています。み仏のはたらきに休みがないということは、かたときも忘れてはならない、いのちのあり方をしているということですね。

寺だより

大学二年の時、2つ上の先輩が亡くなった。夜中の突然死。家族以外で初めて経験する身近な人の死だった。ご家族に連絡し段取りをつけてくれた先輩たちの後に葬儀に向かった。亡くなった先輩の家は京都からJR快速で40分の滋賀県の小都市。山持ち土地持ち田舎の長男、と冷やかされていた先輩の家は、駅から徒歩7分という立地で広い庭付き純和風の大きな屋敷だった。それでも参列者は中に入りきらず、我々は庭から縁側に設けられた卓で焼香をした。

読経の声が流れる中ぼんやりと辺りを見まわす。先輩は毎日この庭を眺め、毎朝ここからリュックを背負って1時間の道のりを学校まで通っていたのだ。先輩は決して男前ではなかったしどちらかというと地味で交友関係も広くはなかった。しかし職人気質というか、ユーモアあふれる独自のセンスで面白い作品を作り出し、その才能は交流のある他大学の学生からも一目置かれていた。そのままいけば先輩は地元で教職について普通に結婚し普通に家族を持って普通に一生をこの家で過ごしたであろう。その「普通」はもう叶わない。この家は次代の当主と次の未来を失くしてしまったのだ。

葬儀後、ご家族の計らいで車に分乗し移動した。10分程で着いたのは大きな河川の近く、樹木の立ち並ぶ土手のようなところだった。そこにお棺を埋めるのだという。土葬であった。予め掘られた穴にお棺を納め、皆で少しづつ土をかける。最後は男衆が残った土を山のように盛り上げた。時間が経つとお棺が腐り、その分の土が沈んでいく。盛り土が地面と同じ高さになった頃に掘り起こし、改めてお骨を墓に納めるのだという。死が肉体の腐敗をともなうものだという当たり前の事を、その時私は強く意識した。

最近、本当に偶然なのだがドライブ中道に迷ってその駅の辺りを通りがかった。駅前には大型ショッピングモールが建ち、先輩の家を見つけることはもうできなかった。

念仏奉仕団

5月9日～10日

2019年5月9日・10日と、本山西本願寺で毎年行われている「念仏奉仕団」に本覚寺から、32名で参加して参りました。

念仏奉仕団とは、本願寺の清掃奉仕を通して、愛山護法の念を深め、親鸞聖人のみ教えに学び、仏恩報謝の生活にいそしみ、真の念仏者としての自覚と意識を高める機縁とすることを目的としたものです。

朝8時に本覚寺をバスで出発し休憩も入れて約4時間の道のりです。そして、本願寺安穏殿に到着してしばらくすると、次々と他の教区の団体がやって来られました。

今回は本覚寺を入れて、計5組の団体が、大阪・兵庫・山陰・安芸から参加していました。参加人数は5団体で総勢163名でした。

まず、安穏殿でオリエンテーションが行われ、その後、御影堂に移動し開会式が行われました。開会式にはご門主もご出席されており、身の引き締まる思いでありました。

そして開会式も終わり、いよいよ清掃奉仕が始まりました。

1日目の清掃場所は、御影堂。畳に一列に並んでヨーイドンで競争しながら雑巾がけをされたり、外陣にある太い柱を磨いたり、廊下の隅々まで拭いたりと、短い時間ではありましたが、皆さん楽しそうに会話しながら清掃奉仕をされていました。

小休憩をはさんで、各団体ごとにご門主との記念撮影・ご面接がありました。ここでは門徒総代で代表の、今宮忠夫さんがご門主にあいさつされ、ご門主のお言葉があり、その後、記念撮影が行われました。

第36回　本覚寺念仏奉仕団　　令和元年5月9日

最後に安穏殿に移動し、法話を聴かせていただき、1日目の日程が終了しました。

2日目の朝は早く、お晨朝参拝から始まりました。本来、お晨朝のお勤めは、阿弥陀堂で「讃仏偈」、その後、御影堂に移動して「正信偈」を勤めるのですが、只今阿弥陀堂内陣の修復が行われているため、親鸞聖人御真影を御影堂内陣北脇壇にご動座（ご移動）し、阿弥陀堂の御本尊・阿弥陀如来を御影堂内陣中央御厨子にご遷仏（ご移動）されている状態でのお晨朝でした。なかなか見ることがないお内陣の荘厳形態でしたので、皆さん食い入るようにお内陣を見ておられました。

お晨朝が終わり、引き続き、帰敬式が行われました。そして今回は17名もの方が帰敬式を受けられました。法名は浄土真宗の門徒としての自覚をもって生きる証しの名前なので、やはり生きている間に御本山で帰敬式を受けて法名を頂きたいものであります。

2日目の清掃場所は、飛雲閣・摘翠園でした。そして今回は、飛雲閣改修工事後だということもあり、摘翠園の池泉は全て抜かれており、池の中に入って清掃することもできました。こんな機会は、そうあること

じゃないので皆さん池の中からの飛雲閣の眺めや、飛雲閣の舟入の間の入り口を覗いてみたりと、普段では見ることが出来ない経験だと、大変喜ばれておりました。

最後に抹茶の接待があり、その後、書院を拝観させていただきました。

閉会式では、本覚寺としての参加が36回目ということで表彰状を頂きました。中には、65回目の参加で表彰されているお寺もありました。話を聞けば毎年参加されているそうで、凄いことだなと感激いたしました。閉会式終了後は嵐山へと移動し、少し遅めの昼食をいただきました。

昼食後は嵐山で2時間ほどの自由行動。

天龍寺や竹林の道を散策された方や、150種類ものバラが咲き誇るカフェでケーキやコーヒーを飲まれた方や、歩き疲れてベンチでずっとおしゃべりしていた方や、家族やお孫さんにいっぱいのお土産を買っている方など、各々で嵐山を満喫していただけたのではなかろうかと思います。

帰りのバスではさすがに皆さん疲れ切っているだろうと思いきや、後ろからは賑やかな笑い声が福井に到着するまでの間、途切れることがありませんでした。

今回、私自身初めての念仏奉仕団参加でありました。右も左も分からない状態でスケジュール決めや段取りをしていく中で、なにが合っているかも、念仏奉仕団自体の流れもいまいちイメージが湧かず、心配事だらけのまま当日を迎えました。至らぬ点もありましたが、皆さまのおかげで無事何事もなく2日間過ごすことが出来ました。今回良かった点や、指摘された点をまた次回行く機会があれば、その時に生かせればと思っております。また、このご縁を機に、これからまた1日1日が「おかげさま」「ありがとう」「ナンマンダブ」そういった御恩報謝の生活に、ますますいそしんで参りたいと思います。

「念仏奉仕団」に参加して

未だ、煩悩具足の凡夫の私ではありますが、古稀が近づくにつれ毎年のように私の周りから大切な人々を一人また一人とお浄土へと見送ることが増え世の無常を感じる日々でありました。そのような中今回ご縁をいただき本覚寺念仏奉仕団の一員として本山の清掃奉仕に初めて参加させていただくことができました。

今回は全国五カ寺から参加された大勢の門徒さんと一緒に開会式終了後広いお堂の清掃奉仕を行いました。清掃後、門主様を囲み記念撮影をさせていただくという栄に浴すことができました。

二日目は、早朝六時から御影堂で、荘厳で張り詰めた空気の中、晨朝の勤行に参加するという貴重な経験をさせていただきました。引き続き帰敬式を受式し門主様より法名をいただき心を新たに感謝とお念仏の後世を強く決意した次第です。

二日間に亘る清掃奉仕では通常入ることのできない国宝飛雲閣を擁する摘翠園の清掃や国宝書院での抹茶接待など、これ迄考えてもみなかった数多くの尊い体験をさせていただきました。また、各地区から参加された本覚寺様の門徒の方々にも親しくしていただき大変たのしい二日間でありました。

野岡町　小柳　博俊

「五百羅漢図屏風」

本堂襖絵は鳥海二楽子という画伯の手によるものです。

鳥海氏は文人墨客として戦前の一時期、本覚寺に逗留されていました。

今回ご遺族よりご縁のある本覚寺に置かせてほしいと屏風をご寄贈いただきました。

襖絵と共に末永く伝えていきたいと思います。

夜桜のライトアップ

昨年からお寺の境内にある桜を数か所ライトアップしています。境内の桜はお裏方が本覚寺に嫁いで来たときに植えられたもので、毎年、綺麗に咲いております。お近くに来た際は、是非お立ち寄りください。

本覚寺ホームページのご案内

年中行事や宝法物など掲載しております。

是非一度ご覧ください。

http://hongakuji.gionsyouja.com/

又、Facebook もございます。

【本覚寺波多野】で検索ください。

携帯用

パソコン用

「他人の過ち」

他人の過ちは見やすく、
おのれの過ちは見難い。
パーリ「法句経」より

人間は、自分だけの力で大きくなることはできません。多くの人たちとつきあって、その中で色々なことを学び、成長するものです。他人のよいところを身につけ、悪いところは真似しないようにしていけば、人との付き合いも楽しくなります。

ところが、いったん相手が嫌いになったりすると、急にその人の欠点が目につきやすくなり、間違った言動をしているとわかると、さらに許せなくなったりします。

そうなると、そばに行ってやさしく間違いを直してあげようなどとはせずに、思わず相手から距離をとるようになってしまったりするのではないでしょうか。

これが反対に自分のこととなると、人は犯した過ちをなんとか正当化しようとして、言いつくろい、ときには嘘までついて、状況をおかしくしてしまったりします。

素直に、「ごめんなさい」と謝ることができないばかりに、のっぴきならないことになってしまうのです。

孔子も「論語」のなかで、「過ちを犯したならば、ためらうことなく改めなければいけない」と言っています。

わたしたちは残念ながら、他人のことをたやすく批判するのに、自分の過ちをなかなか認めることができません。いつもいろいろな言いわけばかりしています。でも、やはり素直に謝れるような人間になりたいものです。

仏教では、仏や僧に、犯した罪を告白して許しを願うことを「懺悔」といいます。なかには、つねに懺悔を心がけている方もいます。

人の過ちをあれこれと指摘する前に、まずはひと呼吸おいて、自分自身のことをふり返って考えてみるゆとりをいつも持ちたいものです。

み仏に
どちらを向いても
拝まれている私

令和二年法要表

一周忌	令和　元年	歿
三回忌	平成　三十	年歿
七回忌	平成二十六	年歿
十三回忌	平成　二十	年歿
十七回忌	平成　十六	年歿
※二十三回忌	平成　十	年歿
二十五回忌	平成　八	年歿
※二十七回忌	平成　六	年歿
三十三回忌	昭和六十三	年歿
五十回忌	昭和四十六	年歿

※印は地区によってされないところもあります

平成二十九年度の年回法要表です。お仏壇の過去帳・お位牌でご確認下さい。

亡き人を偲びつつ、この私が仏法を聞く行事。これが法事です。

皆様でお参りしましょう。

尚、年忌の申し込みの際は、**氏名・住所・電話番号・年回の種類と法名・会場**を必ずお知らせ下さい。

急募

お寺で働いてみませんか?

今まで 10 余年勤めていただいた加藤さんが 3 月で退職されることになりました。
どなたかあとを手伝ってくださる方はいらっしゃいませんか。
仕事内容：お寺の台所、主に調理と寺内の簡単な作業等。
年齢不問。興味のある方は本覚寺寺務所までご連絡ください。

電話　0776-63-2055

～仏教壮年会　会員募集のご案内～

本覚寺仏教壮年会は、昭和 60 年に結成されました。現在、結成 35 年になります。
門信徒の男性を中心に、本覚寺の護持発展、門信徒の為にと、日々活動しています。
結成当時は約 90 名もの方が入会していましたが、現在は約 40 名ほどとなってまいりました。
活動内容としては、法要・イベント時の準備やお手伝い、花蓮の植え替え等、年末には芦原温泉での懇親会などもあります。
比較的永平寺町内の方が多いので、他の市町村の方などの入会もお待ちしております。

年会費　2000 円

：

令和二年　本覚寺行事予定

◆修正会	一月一日	流杯の儀
◇御年頭	一月一日・二日	
◆御正忌	一月十五日　午後二時	
◇門徒大会	二月五日　午前十時	
◆仏壮・仏婦合同報恩講	三月一日	物故者法要・そば会
◇勝山支坊太子講	三月三十一日	
◆花まつり	四月五日　午後一時半	保育園児・幼稚園児・小学生、参加自由
◇花蓮の会	四月十一日　午前八時	花蓮植え替え
◆聖地参拝	計画中	別途ご案内
◇懇親ゴルフコンペ	六月中	参加希望の方　ご連絡下さい
◆降誕会・初参式	六月十四日　午後一時	別途申込
◇勝山支坊永代経	六月三十日	
◆清掃奉仕	永代経前	仏婦
◇掛所盆参り	七月十四日	午後六時より読経
◆永代経	七月十五日・十六日	開闢法要
◇納涼法話会	八月十六日　午後四時	別途ご案内
◆清掃奉仕	報恩講前	仏婦
◇報恩講	十月四日・五日・六日	
◆勝山支坊報恩講	十月二十一日	
◇除夜会	十二月三十一日	午後十一時四十分頃～

【感謝録】

（敬称略）

お供え（米・野菜・果物・菓子等）

猪野口　帰山　信勝
乙坂今北　今宮　忠夫
北四ッ居　塚谷　徹雄
上浄法寺　天谷　元信
東古市　青木　喜代美
大月　清水　勲
鯖江　與佐岡　賢二
阿難祖　前田　清司
重立　田中　克義
諏訪間　竹澤　義明
小塩辻　鹿野　啓信
上北野　冨田　幸二
春江　朝田　勇次
笹尾　山本　清勝
宝永　長谷川　光宏

寄贈（蝋燭）

光明寺　斉川　嘉長

ご奉仕

永代経、報恩講前清掃奉仕　仏教婦人会
除夜会手伝い　仏教壮年会有志
帳場その他お手伝い　仏教壮年会、仏教婦人会

おみがき

永代経前　野岡町御同行
報恩講前　東二ッ屋御同行
年　末　松岡末政御同行

厚く御礼申し上げます。
ありがとうございました。

編集後記

去年の台風の影響でお寺の庫裡大屋根の一部が落下していましたので、先日修復工事が行われていました。昔の寺報を読み返していると、昭和61年にその屋根を新しく施工したという記事を見つけました。34年前というと私はまだ生まれてないので、本覚寺々報に歴史を感じました。【攝受】

ここに第三十一号をお届けします。

皆様方の寺報原稿をお待ちしております。写真や絵、俳句などでも結構です。どうぞご投稿下さい。

発行所　浄土真宗本願寺派
和田山　本覚寺